

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度のスタートから6年目を迎えた今年度は、多くの方が気軽に参加できるよう、連続講座ではなく1回完結型の特別講座を開催していきます。

特別講座「武蔵野の未来の水のめぐりを考える レポーター：水の学校サポーター 新保さん ～自然の機能を活かすグリーンインフラってなんだろう？」

7月13日（土）、東京農業大学准教授の福岡孝則さんを講師に迎えて特別講座を開催しました。グリーンインフラと住みやすい都市づくりのお話を中心に、NPO法人雨水市民の会の笹川さん、市環境部長からも話題提供を行い、後半は3者対談を行いました。松下市長の挨拶にあったように、水の学校はこれまでの5年間で修了生で構成するサポーターが約70名に達し、市と連携した活動のほか自主的な活動を行っています。水は命の源とも言われており、今後、市では多くの方々に水や環境について考えていただけるような講座を提供していきたいと考えています。

「水の学校」水から広がるまちの見方

講師：雨水市民の会 笹川みちるさん

雨の行方をデザインするとき、雨を意識し、楽しむために、雨、水をいろいろな切り口からみることによって、私たちのライフスタイルを変えていくことができます。

武蔵野市の水の学校は、自分たちの使っている水がどこから来てどこへ行くのかを意識してもらうことが目的で、「楽しみながら考えを深め、行動へつなげる」講座です。

水をきっかけに人と人がつながり、その人たちがまちを考え、次の世代に伝えていくことが望まれます。

グリーンインフラを活かした住みやすい都市づくり

講師：東京農業大学准教授 福岡孝則さん

「グリーンインフラ（GI）」という考え方がこれからのまちづくりと、私たちのくらし方にどう関わってくるのか、内外の事例紹介を交えてお話がありました。要旨は以下のとおりです。

リバブルシティとは、公共空間（パブリックスペース）を利用して住みやすい都市をつくることで、そのための骨格となるのがGIの考え方です。具体的には、官民連携による公園を核にした都市再整備（南町田）、民間企業による公務員宿舍活用（広尾）やブラウンフィールドのパブリックスペース化（ニューヨーク市）等が挙げられます。

また、ポートランド市はGIの先進都市で、自然の力を使った持続的な雨水管理などのインフラ整備が行われています。武蔵野市でも、同様のグリーンストリートや都市緑地等のGIを適用した都市づくりが考えられます。

国内では、横浜市や世田谷区でGIの計画が導入されています。GIは官だけではなく、市民が関わる官民連携が可能です。特に若い人がいろいろな人と接しながらGIを学び、それが伝播していくのは素晴らしいことです。市民が都市を育むプロセスに参加することは、住みやすい都市をつくるうえで重要なことです。武蔵野市においても、GIを媒介にして都市の公共空間の質を高め、コミュニティつくりや環境システムを組み立てていくことが求められます。



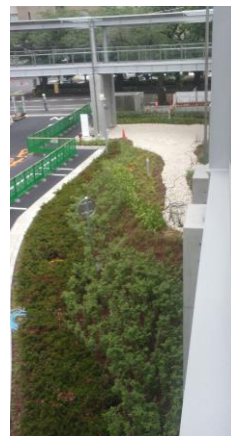
武蔵野市の循環型まちづくり

水循環 グリーンインフラ（レインガーデン）

講師：武蔵野市環境部長 木村浩

今後の気候変動と国連サミットで採択されたSDGsについての認識が必要です。

武蔵野市のGIへの取り組みについては、武蔵野市では現在下水に直接流入する雨水の割合が52%ですが、40%まで下げることが目標にしています。この間、市立小中学校の校庭に雨水貯留浸透施設を、北町保育園の園庭地下に雨水貯留施設を設置し、また市民には雨水浸透ますの設置を勧奨してきました。さらにクリーンセンター内にレインガーデンを造りました（右）。今後水の学校をきっかけに市民の皆さんの学びが深まればと思います。エコプラザ（仮称）は、ごみだけでなくエネルギー、水資源等について自ら学び行動するために使える施設になります。



三者対談

笹川氏をコーディネーターに、①まちの住みやすさと、②武蔵野市がめざす水と緑の未来、③ひとりひとりにできることについて、対談が行われました。

①まちの住みやすさは千差万別、さまざま議論があるが、武蔵野市は自然・文化資源が豊かで、それに立脚した生活がある。各種施設も整備されており、それを市民に実感してもらうことが大事。武蔵野市は全国に先駆け市民緑の憲章を制定するなど、伝統的に緑を守ってきており、これを活かし、裏方である下水事業とも連携していければよい。

②行政にはレトリリーがあろうが、GIといった具体的なテーマで議論して欲しい。GIの評価をどうやって測るかは難しい。ただ、同じようなコンセプトの公園づくりではなく、各々の特色を出していくとか、また、雨水タンクを設置した後のフォローをきちんと行うといったことが大事となろう。どんなまちにしたいのかの目的を明確にすることが重要であろう。

③各種施策を行う場合に、市民が議論に参加し、合意形成をしていくことが大切である。そのためにはそういった「場所」の提供が必要となる。GIをテーマに市民参加の体制の確立が望まれよう。